

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【茶、近畿農政局】

奈良県 農事組合法人グリーンウェーブ月ヶ瀬 （新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7）

- 奈良県有数の茶産地である月ヶ瀬地域において、地域の中核である当法人が既存施設へ**新たにてん茶製造ラインを導入し、工場の利用効率化（合理化）**及び**販売額向上を図り、産地力の強化や地域茶業の継続的な発展に寄与する。**

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 農業者15名の組合員で構成される当法人は、収穫した生葉を1棟の工場（せん茶製造2ライン）で加工する地域の中心的な農業経営体である。
- **せん茶価格の低迷や組合員の高齢化に伴い、現状の生産体制では将来にわたる産地の維持が困難な状況**であった。

【合理化の内容】

- 既存のせん茶製造2ラインのうち1ラインを、**高単価で取引されるてん茶の製造ライン（ネット型てん茶乾燥炉）に切り替えて茶工場の機能を向上させる。**



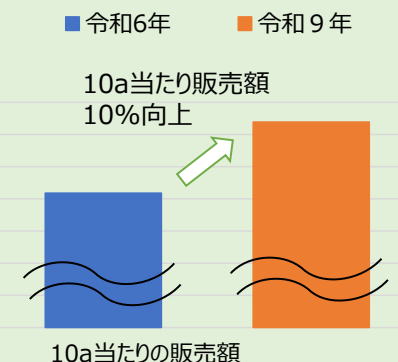
グリーンウェーブ月ヶ瀬の茶園



ネット型てん茶乾燥炉

再編集約・合理化等で期待される効果

- 茶種をせん茶から**てん茶へ転換**することによる**販売額の向上**。
- 操作が容易かつ機能向上した**ネット型てん茶乾燥炉**を利用することによる、**品質の安定化**を通じた**有利販売**が期待。
- **収益性向上により、組合員の茶業経営の継続、新規参入者の受け入れが可能となるため、産地力強化や地域茶業の継続的発展**が期待される。



他産地へのメッセージ

- **省スペースで処理能力の高いネット型てん茶乾燥炉**は、工場の増設を行わずとも現状の生葉数量を処理できるため、**事業費を圧縮しながら、てん茶への茶種転換が図られる。**
- 地域では茶種転換に対する不安の声も聞かれたが、機械導入前にメーカーにて**てん茶の試作製造を依頼して品質等を検討し、事業目標の実現可能性を確認した。**